

## 平成 30 年における木質粒状燃料（木質ペレット）の生産動向について

令和元年 8 月 30 日

林野庁

林野庁は、平成 30 年の木質粒状燃料（木質ペレット）の生産動向を取りまとめました。平成 30 年における木質ペレットの生産量は 13.1 万トン、前年比 3.8%の増加となりました。

### 1.当調査の概要について

林野庁は、毎年、「特用林産物生産統計調査」により、特用林産物の生産量等について調査を行い、その生産動向等について公表しております。今回は、そのうち、「木質粒状燃料（木質ペレット）」の生産量等について公表するものです。

### 2.木質粒状燃料（木質ペレット）の生産動向について

平成 30 年における木質粒状燃料（木質ペレット）の生産量は 13.1 万トン、前年から 0.5 万トンの増加となりました。

工場数は、富山県、宮崎県など 7 道県で計 9 工場増加する一方で、新潟県、大阪府で計 2 工場減少したことから、前年比 7 工場増の 154 工場となりました。

用途別に見ると、燃料用としての生産がほとんどを占め、12.6 万トン（構成比 96.1%）となりました。

原料入手別に見ると製材工場等残材からの生産が 6.7 万トン（構成比 50.7%）、丸太・林地残材からの生産が 4.0 万トン（構成比 30.7%）、建設発生木材が 2.2 万トン（構成比 16.6%）となりました。

丸太・林地残材から生産されたものの樹種別で見ると、スギが 2.5 万トン（構成比 60.9%）、マツが 1.1 万トン（構成比 28.4%）、ヒノキが 0.3 万トン（構成比 8.4%）となりました。詳細は、添付資料を御覧ください。

〈添付資料〉

別添 1 平成 26 年～30 年の木質粒状燃料の生産量、工場数の推移

別添 2 木質粒状燃料の用途別生産量内訳等

別添 3 木質粒状燃料の原料入手区分別生産量及び含水率

別添 4 丸太・林地残材から生産した樹種別生産量

参考資料